# こんな症状が出たら要注意！
# 「コムギ縞萎縮病」

**コムギ縞萎縮病**が道内の主要な秋まき小麦栽培地帯のほぼ全域に広がっています。本病の症状や抵抗性には品種間差があります。これまで、黄化を伴う萎縮が症状として知られていましたが、黄化しない場合もあります。**本病の発生によく注意し、連作しないなどの基本技術を励行しましょう。**

図1　縞萎縮病の病徴　（品種「きたほなみ」）

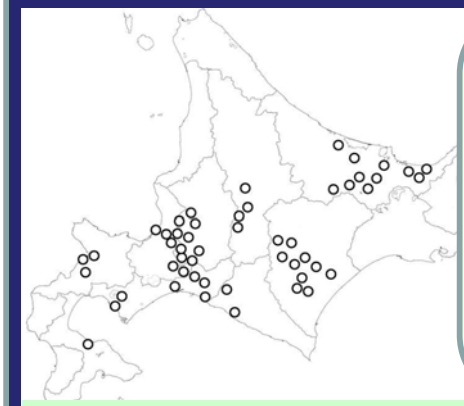


図2　北海道におけるコムギ縞萎縮病の発生分布（市町村別）

①平成24年現在、9振興局51市町村で発生が確認されています。
本病は道内の主要な秋まき小麦栽培地帯のほぼ全域に広がりました。

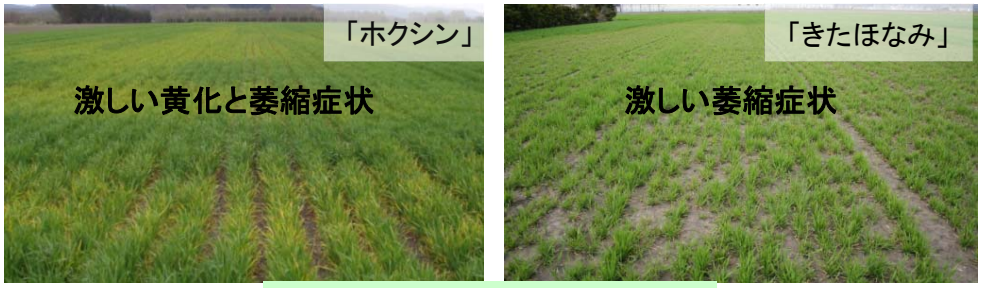


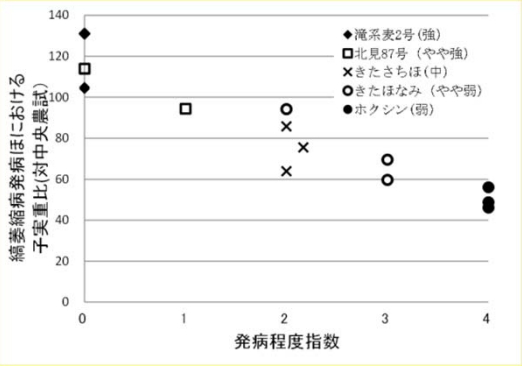

図3　品種による病徴の違い

②「きたほなみ」は本病により激しい萎縮症状を示しますが、黄化症状は軽微なため、黄化症状を目安に判別すると見落としやすくなります。

③「きたほなみ」で本病を確認する場合は、幼穂形成期前後（5月上旬頃）を目安に萎縮が認められる箇所を中心にかすり状の縞の有無をよく探しましょう。

| 「ホクシン」 | 「きたほなみ」 | 「きたさちほ」 | 「ゆめちから」 |
|---|---|---|---|
| 抵抗性“弱” | “やや弱” | “中” | “強” |
| 発病程度指数（4） | （3） | （2） | （0） |

図4　甚発生ほ場での各品種の病徴




（A市縞萎縮病検定ほ場 平成22～24年）
注）子実重比=A市発病ほ場子実重/中央農試子実重×100

図5　縞萎縮病発病程度と子実重比の関係

④　発病程度指数4（激しい黄化および萎縮）と指数3（激しい萎縮）では著しく減収します。
発病程度指数2（軽い萎縮およびかすり状の縞）の場合には、減収の可能性があります。

お問合せは　道総研十勝農業試験場　〒082-0081 北海道河西郡芽室町新生南9線2番地
研究部生産環境グループ　Tel 0155-62-9812 tokachi-agri@hro.or.jp